

# 図画工作科学習指導略案

3年2組 37名 指導者 林 智 美

本授業は、以下の検証を行うものである。

友達とのかかわり合いの中で、いろいろ試しながら見付けることにより、自分のイメージを深め、表現につなげることができ、意欲をもって自主的に活動に取り組む子どもが育つのではないか。

## 1 題 材 あのときをわすれない（絵にあらわす）

### 2 指導計画（総時数8時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
思いをもつ	1 毎日の生活の中で、見付けたことや感じたことについて話し合う。 2 学習のめあてをとらえる。 心に残った出来事を、そのときの気持ちが伝わるように工夫して絵に表そう。 3 作品例を見て、作者がそのとき何を感じて伝えたかったのかを話し合う。 【関：日常生活の中から見付けたことや感じたことを絵に表そうとしている。】	2
まふ思 すく いらを	4 一番かきたいことをアイディアスケッチする。 【想：かき表したいことの中心になるものを決め、表し方の構想を練ろうとしている。】	
自他のよさに 思いを表現する ／ 気付く	5 表したいことがしっかりと表現できるように工夫してかく。 ・下絵をかく。 ・線を工夫して丁寧にかく。 【技：中心と周りのものを考えて、表したいことが伝わるように丁寧にかいている。】	2
	6 水彩絵の具の使い方を確認し、彩色の仕方の工夫を調べる。 【技：水彩絵の具の使い方を理解し、絵の具の特徴や工夫の仕方を知ることができる。】	1 (本時)
	7 中心になるものと周りのものがはっきりと分かるように彩色する。 【技：水彩絵の具の使い方を工夫して絵に表している。】	
	8 表現の途中で互いの作品を見せ合い、自分の表現に生かす。 【鑑：自分や友達の絵を見せ合い、よさを感じている。】	2
も思新 つた いな	9 作品カードを書き、互いの工夫やよさを話し合う。 【鑑：自分や友達の絵を見せ合いながら、表したかったことについて話し合っている。】	1

## 6 本 時（5／8）

### (1) 目 標

自分の伝えたいことを表現するために、水彩絵の具の使い方の工夫を知ることができるようにする。

### (2) 評価規準

水彩絵の具の基本的な使い方を理解し、絵の具の特徴や工夫の仕方を調べている。【創造的な技能】

### (3) 指導に当たって

本題材の学習では、これまでに子どもたちは、自分の思いが伝わるように、中心のものと周りのものを考えて工夫してかいてきている。そして、その作品に絵の具で色を入れることで、さらに自分の表したいことが伝わるようになるという期待感を持っている。そこで、絵の具の使い方に慣れるために、色作りをすることで、色の混ぜ方や水の加減によって色の変化や新たな色が生まれることを体験させたい。

「思いをもつ」過程では、自分の作品を振り返り、「表したいことがもっと伝わるように、絵の具の使い方を工夫したいな。」という思いをもてるように導入を工夫し、めあてにつなげていく。

「思いをふくります」過程では、司会団を中心に絵の具の使い方の基本を押さえ、まずは一人で色作りを行い、自分の絵の中で使いたいなと思う色や、混ぜてできた色をカードにのせていく。

「思いを表現する／自他のよさに気付く」過程では、自分のパレットとできた色をグループで見せ合ったり、グループみんなの作った色カードをホワイトボードに貼ってひみつを調べたりするなど、作った色のよさや、絵の具の使い方の工夫に気付くことができるようにする。

「新たな思いをもつ」過程では、司会団を中心に本時の学習を振り返り、自分や友達の工夫や気付きを話し合い、お互いのよさを認め合えるようにする。また、絵の具の工夫の仕方を知り、自分の作品の思いを表現するのに活用したいという意欲を高められるようにする。そして、次の製作活動で生かすことができるように、まとめの補説を行うようにする。最後に、学習計画を確認し、今後の活動の見通しをもたせ、自分から「やってみよう」と、子ども自ら意欲的に学習を進める力を高めたい。

過程	時間	形態	主な学習活動と指導の手立て・評価	教材等	
思いをもつ	7	みんなで	<p>1 司会団が、前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいことが伝わるように線のかき方を工夫したよ。</li> <li>・色を入れるのが楽しみだな。</li> </ul> <p>2 板書資料から本時の学習について知り、自分の作品への思いをもつ。</p> <p>3 司会団が、めあてや本時の学習の流れを確認する。</p> <p>かきたいことの思いがたつたわるように絵の具のひみつを調べよう。</p>	<p>板書資料を提示し、本時の学習について観点を持ち、イメージを膨らませ、「やってみよう」という思いをもてるようにする。</p> <p>子どもの反応からキーワードを提示し、めあてにつなげていく。</p> <p>キーワードをもとに、司会団が中心となってめあてをたてられるようにする。</p>	<p>題材名 ボード</p> <p>進行 カード</p> <p>ワーク シート</p>
思いをふくらます	30	一人で	<p>4 司会団が中心となって学習を進める。</p> <p>(1) 絵の具の使い方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パレットの使い方</li> <li>・水入れの使い方</li> </ul> <p>(2) 絵の具を使って自由に混色を作り、カードに色をのせていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この色を混ぜるとどうかな。</li> <li>・水の量でも色が変わるよ。</li> <li>・混ぜすぎると色が黒っぽくなったよ。</li> </ul> <p>(3) 絵の具をのせたカードとパレットを見せ合い、気付いたことを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん色ができているパレットは、運動場にいろいろ色ができていてきれいだね。</li> </ul> <p>(4) ホワイトボードに、グループみんなの色を貼って、色のひみつをさぐる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これは、全部〇色だけど、少しずつ違って同じ色じゃないよ。</li> <li>・同じ仲間の色に分けられるね。</li> <li>・色が集まると模様みたいできれいだね。</li> </ul> <p>(5) グループで気付いたことを発表し合い、色のひみつについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵の具には、混ぜるとたくさん色ができるといひみつがあります。</li> <li>・この色の仲間、あったかい感じがするので、〇〇の所に使いたいです。</li> </ul>	<p>基本的な絵の具の使い方を、司会団を中心にすぐ確認できるように、板書資料を準備しておく。</p> <p>色だけでなく水の量にも気付けるようにヒントカードを準備しておく。</p> <p>混色の面白さや活用方法に気付くことができるように、できた色を1色だけのせるカード(磁石を付けホワイトボードに貼れるようにしたもの)をたくさん準備する。</p>	<p>司会者 カード</p> <p>絵の具の 基本的な 使い方 板書資料</p> <p>色のせ カード</p>
思いを表現する／自他のよさに気付く		みんなで	<p>※ 水彩絵の具の基本的な使い方を理解し、絵の具の特徴や色作りの工夫を調べようとしている。(パレット・水入れ・カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 積極的に試して色を作り出しているグループには、混色のよさや水加減での変化に気付けるようにする。</li> <li>○ 活動が停滞していたり、色が濁っていたりするグループには、道具の使い方を確認させたり、一緒に活動したりする。</li> </ul> <p>自分や友達のよさを認め合い、表現への自信を高められるようにする。</p> <p>本時の活動や気付いたことの中から、本時のポイントを補説して本時の学習をまとめ、気付きのよさを紹介し、次時への意欲を高められるようにする。</p>	<p>ホワイト ボード</p> <p>グループ 話合い カード</p> <p>ヒント カード</p>	
新たな思いをもつ	8	みんなで	<p>5 司会団といっしょに本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・混ぜるといろんな色ができる。</li> <li>・色の仲間分けができる。</li> <li>・自分の絵の〇〇に使ってみたい。</li> </ul> <p>6 教師からまとめの補説を聞く。</p> <p>7 司会団が学習計画を基に、次時の学習を確認する。</p>		